

1

$y = f(x)$ と $y = k$ かつ y を消去して,

$$\frac{1}{x^2 \left(\log \frac{a}{x}\right)^2} = k$$

このとき, $k > 0$ かつ,

$$x^2 (\log a - \log x)^2 = \frac{1}{k}$$

$g(x) = x^2 (\log a - \log x)^2$ とおき, $y = g(x)$

と $y = \frac{1}{k}$ のグラフの共有点の数を n とおき, $n = 2$ 個存在するような条件を導く。

$$\begin{aligned} g'(x) &= 2x (\log a - \log x)^2 \\ &\quad + x^2 \cdot 2 (\log a - \log x) \cdot \left(-\frac{1}{x}\right) \\ &= 2x \log \frac{a}{x} \left(\log \frac{a}{x} - 1\right) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \therefore \text{て}, \quad &0 < x < 1, \quad a > 1 \text{ かつ}, \\ &2x \log \frac{a}{x} > 0 \end{aligned}$$

このとき,

$$\log \frac{a}{x} - 1 = 0 \Leftrightarrow x = \frac{a}{e}$$

(i) $a \geq e$ のとき,

$$\frac{a}{e} \geq 1 \text{ かつ}, \quad 0 < x < 1 \text{ には},$$

$$g'(x) > 0$$

であるから,

$g(x)$ は単調増加

したがって, $y = g(x)$ と $y = \frac{1}{k}$ のグラフの共有点の数は 2 個となることはなく不適。

(ii) $1 < a < e$ のとき,

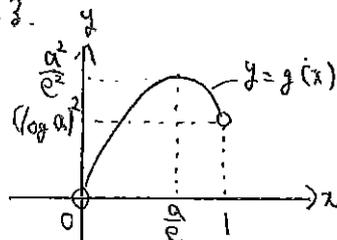
$0 < \frac{a}{e} < 1$ かつ, $0 < x < 1$ における $g(x)$ の増減は次のようになる。

x	(0)	\dots	$\frac{a}{e}$	\dots	(1)
$g'(x)$		$+$	0	$-$	
$g(x)$		\nearrow	$\frac{a^2}{e^2}$	\searrow	$((\log a)^2)$

また,

$$\begin{aligned} \lim_{x \rightarrow +0} g(x) &= \lim_{x \rightarrow +0} (x \log a - x \log x)^2 \\ &= 0 \end{aligned}$$

したがって, $y = g(x)$ のグラフは次のようになる。



以上より, 満たすべき条件は,

$$(\log a)^2 < \frac{1}{k} < \frac{a^2}{e^2}$$

$k > 0$ かつ,

$$\frac{e^2}{a^2} < k < \frac{1}{(\log a)^2}$$

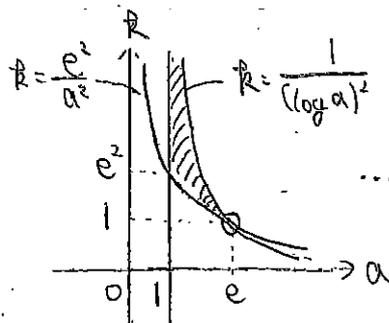
よって, (i), (ii) より, a, k の満たす条件は,

$$1 < a < e \text{ かつ } \frac{e^2}{a^2} < k < \frac{1}{(\log a)^2} \quad \dots \textcircled{1}$$

このとき, $1 < a < e$ には,

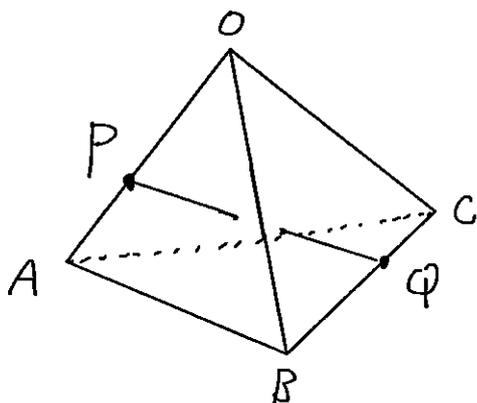
$$k = \frac{e^2}{a^2}, \quad k = \frac{1}{(\log a)^2}$$

はともに単調減少であることより, ①を図示すると, 次図の斜線部 (境界を含む)。



... (答)

2 $r > 0$.



辺BC上に点Qをとる。
 点Pが辺OA上を、点Qが辺BC上を
 とそれぞれ独立に動いたときの線分PQ
 の長さの最大値をM, 最小値をm
 とすると、求めるrの値の範囲は、
 $0 < r < m, M < r \dots (*)$
 である。

$\vec{OA} = \vec{a}, \vec{OB} = \vec{b}, \vec{OC} = \vec{c}$ とおくと、

$$\vec{OP} = s\vec{a} \quad (0 \leq s \leq 1)$$

$$\vec{OQ} = (1-t)\vec{b} + t\vec{c} \quad (0 \leq t \leq 1)$$

と表すことができる。

$$\vec{PQ} = \vec{OQ} - \vec{OP}$$

$$= -s\vec{a} + (1-t)\vec{b} + t\vec{c}$$

よって、

$$\begin{aligned} |\vec{PQ}|^2 &= |-s\vec{a} + (1-t)\vec{b} + t\vec{c}|^2 \\ &= s^2|\vec{a}|^2 + (1-t)^2|\vec{b}|^2 + t^2|\vec{c}|^2 \\ &\quad - 2s(1-t)\vec{a} \cdot \vec{b} + 2(1-t)t\vec{b} \cdot \vec{c} \\ &\quad - 2st\vec{c} \cdot \vec{a}. \end{aligned}$$

$$\therefore |\vec{a}| = |\vec{b}| = |\vec{c}| = 1,$$

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{b} \cdot \vec{c} = \vec{c} \cdot \vec{a} = 1 \cdot 1 \cdot \cos \frac{\pi}{3} = \frac{1}{2}$$

を用いると、

$$\begin{aligned} |\vec{PQ}|^2 &= s^2 + (1-t)^2 + t^2 \\ &\quad - s(1-t) + (1-t)t - st \\ &= s^2 - s + t^2 - t + 1 \\ &= (s - \frac{1}{2})^2 + (t - \frac{1}{2})^2 + \frac{1}{2}. \end{aligned}$$

s, t は、独立に $0 \leq s \leq 1, 0 \leq t \leq 1$
 の範囲で動くことに注意する。

$$0 \leq (s - \frac{1}{2})^2 \leq \frac{1}{4}, 0 \leq (t - \frac{1}{2})^2 \leq \frac{1}{4}$$

$$\text{よって、} \frac{1}{2} \leq |\vec{PQ}|^2 \leq 1,$$

よって、

$$M = 1, m = \frac{\sqrt{2}}{2}$$

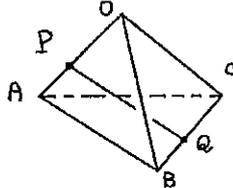
(*)より、求めるrの値の範囲は、

$$0 < r < \frac{\sqrt{2}}{2}, 1 < r \dots (\text{答})$$

2 (別解)

$r > 0$.

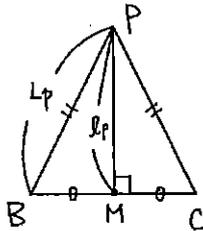
Pを固定する. 辺BCの中点をMとし,
PB, PMの長さをそれぞれ, L_p, l_p とおく.



$\triangle OPB \cong \triangle OPC$ より
 $\triangle PBC$ は $PB=PC$ の二等辺三角形
であるから, 辺BC上の点Qに対して,

$$l_p \leq PQ \leq L_p \dots \textcircled{1}$$

が成り立つ.

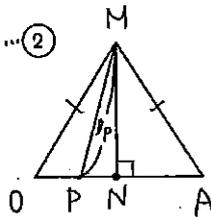


次に点Pを辺OA上で動かす.

$\triangle COM \cong \triangle CAM$ より
 $\triangle MOA$ は $MO=MA$ の二等辺三角形
であるから, 辺OAの中点をNとすると,

$$MN \leq l_p \dots \textcircled{2}$$

が成り立つ.

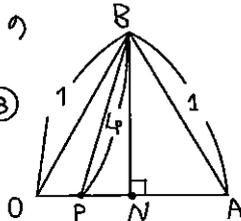


$\triangle OAB$ は 1辺の長さが1の
正三角形であるから,

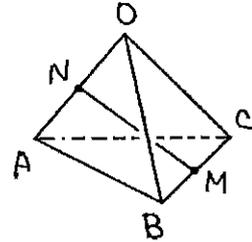
$$L_p \leq 1 \dots \textcircled{3}$$

($OA=OB=1$ より)

が成り立つ.



$$\begin{aligned} MN &= \sqrt{BN^2 - BM^2} \\ &= \sqrt{OB^2 - ON^2 - BM^2} \\ &= \sqrt{1 - (\frac{1}{2})^2} \cdot 2 \\ &= \frac{\sqrt{2}}{2} \end{aligned}$$



と ①, ②, ③ より, 点Pが辺OA上,
点Qが辺BC上を動くとき,

PQのとりうる値の範囲は,

$$\frac{\sqrt{2}}{2} \leq PQ \leq 1.$$

ここで, Pを中心とする半径rの球面が
辺BCと共有点をもつ条件は,

$$PQ = r$$

となる辺BC上の点Qが存在すること

であるから, 辺OA上のある点Pで,

点Pを中心とする半径rの球面が

辺BCと共有点をもつようなrの範囲は,

$$\frac{\sqrt{2}}{2} \leq r \leq 1.$$

よって, 点Pが辺OA上のどこにあっても,

点Pを中心とする半径rの球面が

辺BCと共有点をもたないようなrの範囲

は, $r > 0$ を考慮して,

$$0 < r < \frac{\sqrt{2}}{2}, 1 < r \dots (\text{答})$$

3

$$f_n(x) = (x+1)^{2^{n+1}} - (x^2+1)^{2^n} \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

とおく。

$(x+1)^{2^{n+1}}$ の1次の項は $2^{n+1} C_1 x$ 。
 $(x^2+1)^{2^n}$ に1次の項はない。

よって、 $f_n(x)$ の1次の項の係数は
 $2^{n+1} C_1 = 2^{n+1}$ 。

したがって、 $f_n(x)$ のすべての係数が
 2^m で割り切れるような正の整数 m
 に対して $m \leq n+1$ が成り立つ。

次に

「 $f_n(x)$ のすべての係数が 2^{n+1}
 で割り切れる」 --- (*)

ことを数学的帰納法で示す。

(i) $n=1$ のとき

$$\begin{aligned} f_1(x) &= (x+1)^4 - (x^2+1)^2 \\ &= 4x^3 + 4x^2 + 4x \\ &= 2^2 x^3 + 2^2 x^2 + 2^2 x \end{aligned}$$

であるから、(*) は $n=1$ で成り立つ。

(ii) $n=k$ のとき

(*) の成立、すなわち $f_k(x)$ のすべての
 係数が 2^{k+1} で割り切れると仮定
 する。

このとき

$$\begin{aligned} f_{k+1}(x) &= (x+1)^{2^{k+2}} - (x^2+1)^{2^{k+1}} \\ &= \{(x+1)^{2^{k+1}}\}^2 - \{(x^2+1)^{2^k}\}^2 \\ &= \{(x+1)^{2^{k+1}} + (x^2+1)^{2^k}\} f_k(x) \end{aligned}$$

および

$$\begin{aligned} &(x+1)^{2^{k+1}} + (x^2+1)^{2^k} \\ &= \{(x+1)^2\}^{2^k} + (x^2+1)^{2^k} \\ &= \{(x^2+1) + 2x\}^{2^k} + (x^2+1)^{2^k} \\ &= 2(x^2+1)^{2^k} + \sum_{i=1}^{2^k} 2^k C_i (x^2+1)^{2^k-i} (2x)^i \\ &= 2 \{(x^2+1)^{2^k} + \sum_{i=1}^{2^k} 2^k C_i (x^2+1)^{2^k-i} 2^{i-1} x^i\} \end{aligned}$$

より、 $f_{k+1}(x)$ のすべての係数は

$$2 \times 2^{k+1} = 2^{(k+1)+1}$$

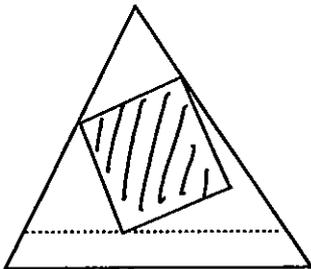
で割り切れ、(*) は $n=k+1$ で成り
 立つ。

(i), (ii) より、 $f_n(x)$ のすべての係数
 は 2^{n+1} で割り切れる。

以上の二つより、 $f_n(x)$ のすべて
 の係数が 2^m で割り切れるような
 正の整数 m のうち、最大のものは $n+1$
 である。(証明終り)

4

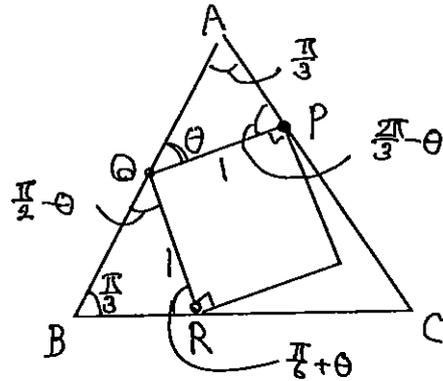
1辺の長さが1の正方形を周または内部に含む正三角形の1辺の長さの最小値を求めよ。



上図のように正三角形のうち、その辺上に正方形の頂点が存在しないものがあるならば、正方形を包含、より小さな正三角形が作れる。よって、このような正三角形が存在するならば、その各辺それぞれに正方形の頂点が存在する。その3点をP, Q, Rとすると、P, Q, Rが正三角形の頂点と一致することはない。

P, Q, Rは正方形の4つの頂点から3点を選んだものであるから、 $\angle PQR, \angle QRP, \angle RPQ$ のうち1つは $\frac{\pi}{2}$ となる。

$\angle PQR = \frac{\pi}{2}$ とする。



上図のように正三角形ABCがあって、辺AC, AB, BC上にP, Q, Rがあるととしても一般性を失わない。

$\angle AQP = \theta$ とすると、 $\angle AQR, \angle QRB$ は $\frac{\pi}{2}$ 以下であるから、

$$\frac{2\pi}{3} - \theta \leq \frac{\pi}{2}, \quad \frac{\pi}{6} + \theta \leq \frac{\pi}{2}$$

$$\frac{\pi}{6} \leq \theta \leq \frac{\pi}{3} \quad \dots\dots\dots ①$$

である。三角形APQ, BQRに正弦定理を用いて

$$AQ = \frac{\sin(\frac{2\pi}{3} - \theta)}{\sin \frac{\pi}{3}} = \frac{2}{\sqrt{3}} \sin(\frac{2\pi}{3} - \theta)$$

$$BQ = \frac{\sin(\frac{\pi}{6} + \theta)}{\sin \frac{\pi}{3}} = \frac{2}{\sqrt{3}} \sin(\frac{\pi}{6} + \theta)$$

よって、和と積の公式より

$$AQ + BQ = \frac{4}{\sqrt{3}} \sin \frac{5\pi}{12} \cos(\frac{\pi}{4} - \theta)$$

であるから、①より

$$-\frac{\pi}{12} \leq \frac{\pi}{4} - \theta \leq \frac{\pi}{12}$$

4

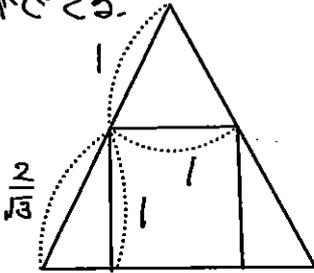
るので

$$\begin{aligned} AQ+BQ &\geq \frac{4}{\sqrt{3}} \sin \frac{5\pi}{12} \cos \frac{\pi}{12} \\ &= \frac{2}{\sqrt{3}} (\sin \frac{\pi}{2} + \sin \frac{\pi}{3}) \\ &= 1 + \frac{2}{\sqrt{3}} \end{aligned}$$

よって、正方形を含む正三角形の
1辺の長さは $1 + \frac{2}{\sqrt{3}}$ 以上であり

1辺の長さがちょうど $1 + \frac{2}{\sqrt{3}}$ のとき、

下図のように1辺の長さが1の
正方形を固まれば内部に含む
ことができる。



以上より、求める最小値は

$$1 + \frac{2}{\sqrt{3}} \quad \text{..... (答)}$$

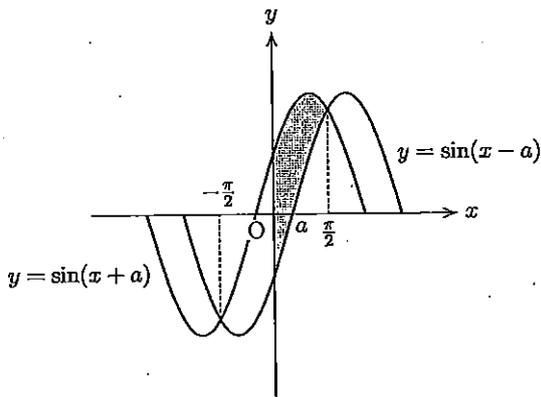
5

$y = \sin(x+a)$ と $y = \sin(x-a)$ のグラフで囲まれる図形は原点に関して対称である。

したがって、 D_a は原点に関して対称であるから、まず D_a の $0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$ の部分について考える。

求める体積を V とする。

(i) $0 < a \leq \frac{\pi}{2}$ のとき。



$0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$ において、

$$\begin{aligned} & |\sin(x+a)|^2 - |\sin(x-a)|^2 \\ &= 4 \sin x \cos x \sin a \cos a \geq 0 \end{aligned}$$

よって、

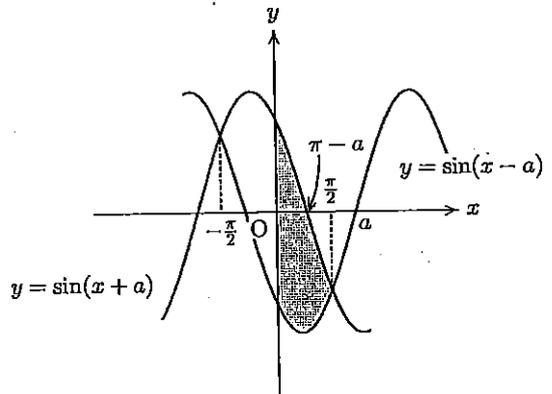
$$|\sin(x+a)| \geq |\sin(x-a)|.$$

よって、

$$\begin{aligned} \frac{V}{2} &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} \pi \sin^2(x+a) dx \\ &\quad - \int_0^{\frac{\pi}{2}} \pi \sin^2(x-a) dx \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &= \pi \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{1 - \cos(2x+2a)}{2} dx \\ &\quad - \pi \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{1 - \cos(2x-2a)}{2} dx \\ &= \frac{\pi}{2} \left[x - \frac{\sin(2x+2a)}{2} \right]_0^{\frac{\pi}{2}} \\ &\quad - \frac{\pi}{2} \left[x - \frac{\sin(2x-2a)}{2} \right]_0^{\frac{\pi}{2}} \\ &= \frac{\pi}{2} \left(\frac{\pi}{2} + \frac{\sin 2a}{2} + \frac{\sin 2a}{2} \right) \\ &\quad - \frac{\pi}{2} \left(\frac{\pi}{2} - a - \frac{\sin 2a}{2} \right) \\ &= \frac{\pi}{2} \left(a + \frac{3}{2} \sin 2a \right). \end{aligned}$$

(ii) $\frac{\pi}{2} \leq a < \pi$ のとき。



$0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$ において、

$$\begin{aligned} & |\sin(x-a)|^2 - |\sin(x+a)|^2 \\ &= -4 \sin x \cos x \sin a \cos a \geq 0 \end{aligned}$$

よって、

$$|\sin(x-a)| \geq |\sin(x+a)|.$$

5

よって,

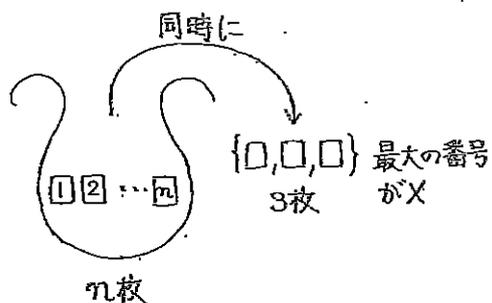
$$\begin{aligned}
 \frac{V}{2} &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} \pi \sin^2(x-a) dx \\
 &\quad - \int_{\pi-a}^{\frac{\pi}{2}} \pi \sin^2(x+a) dx \\
 &= \pi \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{1 - \cos(2x-2a)}{2} dx \\
 &\quad - \pi \int_{\pi-a}^{\frac{\pi}{2}} \frac{1 - \cos(2x+2a)}{2} dx \\
 &= \frac{\pi}{2} \left[x - \frac{\sin(2x-2a)}{2} \right]_0^{\frac{\pi}{2}} \\
 &\quad - \frac{\pi}{2} \left[x - \frac{\sin(2x+2a)}{2} \right]_{\pi-a}^{\frac{\pi}{2}} \\
 &= \frac{\pi}{2} \left(\frac{\pi}{2} - \frac{\sin 2a}{2} - \frac{\sin 2a}{2} \right) \\
 &\quad - \frac{\pi}{2} \left(\frac{\pi}{2} - \pi + a + \frac{\sin 2a}{2} \right) \\
 &= \frac{\pi}{2} \left(\pi - a - \frac{3}{2} \sin 2a \right).
 \end{aligned}$$

(i), (ii) より,

$$\left. \begin{aligned}
 0 < a \leq \frac{\pi}{2} \text{ のとき} \\
 V &= \pi \left(a + \frac{3}{2} \sin 2a \right) \\
 \frac{\pi}{2} \leq a < \pi \text{ のとき} \\
 V &= \pi \left(\pi - a - \frac{3}{2} \sin 2a \right)
 \end{aligned} \right\} \dots (\text{答})$$

6

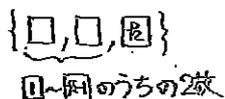
$n \geq 3$.



取り出し方は nC_3 通りであり, これらは同様に確からしい.

$3 \leq k \leq n$.

$X=k$ となるのは, 取り出した3枚が



となる場合で, $k-1C_2$ 通りある.

よって,

$$P(X=k) = \frac{k-1C_2}{nC_3} = \frac{(k-1)(k-2)}{2nC_3}$$

X の期待値は

$$\begin{aligned} E(X) &= \sum_{k=3}^n k P(X=k) \\ &= \frac{1}{2nC_3} \sum_{k=3}^n k(k-1)(k-2) \\ &= \frac{1}{2nC_3} \sum_{k=3}^n \frac{1}{4} \{ (k+1)k(k-1)(k-2) - k(k-1)(k-2)(k-3) \} \\ &= \frac{1}{8nC_3} \{ \cancel{4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1} - 3 \cdot 2 \cdot 1 \cdot 0 \\ &\quad + \cancel{5 \cdot 4 \cdot 3 \cdot 2} - 4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1 \\ &\quad + \dots \\ &\quad + (n+1)n(n-1)(n-2) - n(n-1)(n-2)(n-3) \} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &= \frac{1}{8nC_3} \cdot (n+1)n(n-1)(n-2) \\ &= \frac{3(n+1)}{4} \quad \text{--- (答)} \end{aligned}$$